

今、何の病気が流行しているか！

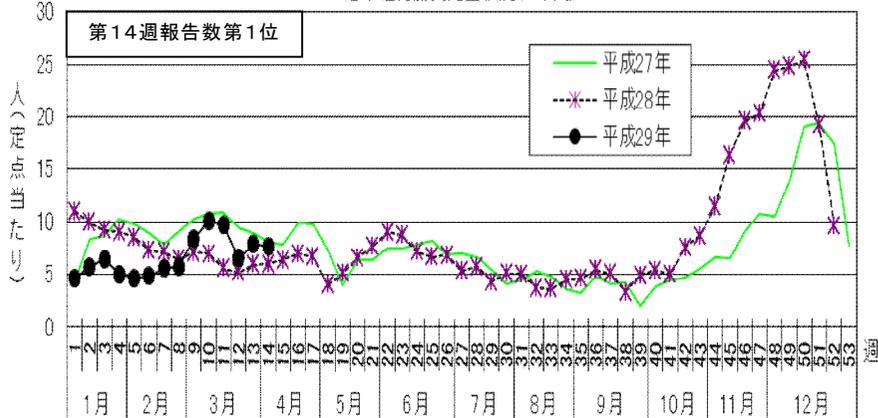
【感染症発生動向調査事業から】

平成29年4月3日（月）～平成29年4月9日（日）〔平成29年第14週〕の感染症発生状況

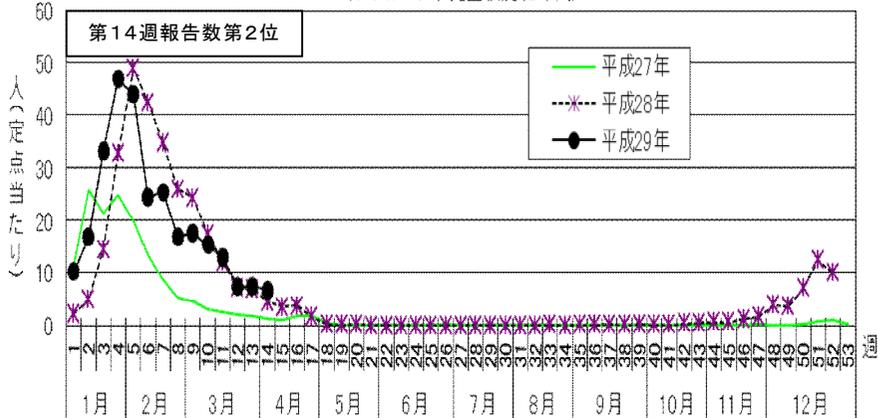
第14週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) インフルエンザ 3) 流行性角結膜炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は7.66人と前週（7.86人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 インフルエンザの定点当たり患者報告数は6.63人と前週（7.40人）から減少し、例年よりやや高いレベルで推移しています。
 流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は2.00人と前週（2.11人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



インフルエンザ発生状況(3年間)



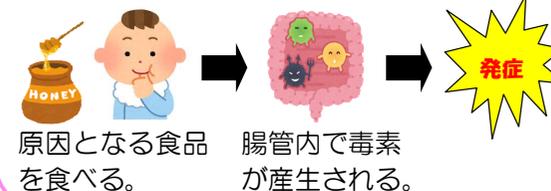
知っていますか？乳児ボツリヌス症

ボツリヌス症は、ボツリヌス菌が産生する神経毒素が引き起こす神経麻痺症候群です。中でも乳児ボツリヌス症は、主に1歳未満の乳児において、原因食品（ハチミツやハチミツ入りの飲料・お菓子など）と共に摂取したボツリヌス菌の芽胞（通常の加熱や調理では死にません。）が腸管内で毒素を産生することで発症します。
ハチミツ及びハチミツを含む食品は、1歳未満の乳児には与えないでください。

典型的な乳児ボツリヌス症の症状は？

便秘から始まり、筋力低下を伴う左右対称性の全身の神経麻痺が起こります。
 ミルクなどを飲みこむことができずによだれが増えたり、首のすわりが悪くなったりするだけでなく、時に突然の呼吸停止を起こすこともあります。
※早期に症状を検知し、人工呼吸管理など適切な治療を行うことで救うことができます。

乳児ボツリヌス症の発症



1歳未満の乳児が発症するのは、乳児の腸内細菌の生態系が成人と異なりボツリヌス菌の定着と増殖が起こりやすいためと考えられています。

